



文狩り



For Adult Only



その日わたしは
幻想郷の裏社会に
流通する



ある薬物の存在に
迫っていました

遂にその
取引現場を
押さえたのですが

一瞬の油断で
奴らの手にかかり

「それ」を挿入され

意識は薄れ…

気を取り戻した
わたしを待ち
受けていたのは
地獄でした

薄暗い地下牢の
ような場所……

そこでわたしは
調教と称した
おぞましい拷問を
受けました

肛門に様々な
器具を押し込まれ

苦痛に泣き叫ぶ
わたしを尻目に
それらは徐々に
太きを増し……

……遂に男の拳までが
わたしの肛門に
収められてしまいました

女としての尊厳は
完全に奪われ

わたしはただの
肉の穴と化したのです

拳を体内に
受け入れた翌日
わたしは小さな舞台の
壇上に解き放たれました

「さあ 天狗娘の
公開アナニーショーだ」

無情に放たれる
その言葉に逆らうこともできず

わたしは血走った男達の前で
自分の肛門を拡げるのです

己の唾液を指に塗り
肛門の奥 直腸にまで
指を滑り込ませ
丹念に揉み解します

唾液と腸液の混じった甘臭い白いが
吹き出る汗の蒸気に乗せられて
あたりに充満してきました

それが恥ずかしくて
……でもわたしは
同時に興奮していたんです

今日はいつもと
様子が異なりました

連日わたしを責め立てた
野獣のような男達とは違う
繊細そうな青年が
目の前にいました

「こいつを筆下ろししてやってくれ」

経緯は分かりませんが
わたしは彼らの指示に
従うだけ

青年の顔にお尻を押し付け
いやらしい肛門の白いを
嗅がせてあげます

すると青年のモノが
目に見えて膨張していきます

わたしの白いで興奮して
くれたことが嬉しくて

わたしは自ら彼のモノを
肛門にメリ込ませ
アナルファックを開始しました

彼のモノにわたしの
いやらしい白いを
たっぷり擦り込ませて
あげました

ビーン

わたしは烏天狗で雌鳥だから
このいやらしいお尻の穴で
卵を温めるの……

でも……別れの時はやってくる
生まれてくる雛のためにも
外の世界に解き放つてあげないとね

ぐっと下腹部に力を入れ
切なくて甘い感覚が
下半身に満ち溢れてくる

1個1個産み落とすたび
声を上げて悦んじやうわたし……
なんていやらしいお母さん
なのでしよう……

本当の卵じゃないけど
こうしてお腹の中に入っていると
とても安心するの
ずっとこのままでいたい……

彼らは生まれたての卵を
わたしの顔に近づけ
わたしはそれにキスをするの

脳が蕩けるような
甘い匂いに包まれた
わたしの卵……
愛おしい……



文狩り

発行者：ショーン

サークル：サジタリウス

URL：

<http://www.pixiv.net/member.php?id=121660>

<http://www.nicovideo.jp/user/453239>

<http://nijie.info/members.php?id=740>

発行日：2013/11/3

「第百二十八季 文々。新聞友の会」

印刷：ねこのしっぽ様

原作：東方プロジェクト

成人向けのため、未成年者の閲覧、
購入を禁止します。

この本を無断で複製、アップロードする
ことを禁じます。



sagittarius